

## インドラ ニ とチャンダラ シンガポ ル出身の元ヒンズ 教徒（上）

:

明:

ヒンズ 教徒の女性がスワ ミ（ヒンズ 教 ）の敬虔な助手と 婚しますが、悟りのため他宗教に目を向  
けます。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ムニ ラ アル=イドロス（インタビュー）

日 26 May 2014

集日 26 May 2014



ニシャ ニ（旧名インドラ ニ）と彼女の夫ラフィ ク（旧名チャンダラ）が、ムニ ラ アル  
=イドロスにイスラ ムを受け入れるまでの を ります。

インドラ ニ は彼女の父が亡くなったとき、まだ6 でした。彼女の母は、5人の小さな子  
供たちと共に未亡人となってしまったことを不公平だと感じ、神への祈りを捧げるこ  
とを止めてしまいました。インドラ ニ と彼女の兄妹はヒンズ 教徒として育ちました。  
彼らの家には多くのヒンズ 教徒の家庭にあるような、神 や神々の肖像画などがありま  
せんでした。

インドラ ニ が10 の 、彼女は神への 情を示し始めました。彼女はヒンズ 教の神々や女神が描かれた を集め、家で崇 しました。彼女は祈りの必要性を感じ、自分の家が他のヒンズ 教徒の家庭のような宗教 礼を殆ど行わないことを奇妙に感じていました。

インドラ ニ は10代になると、 に2回は寺院に通うようになります。ヒンズ 教への 味を急速に く持ち始めた彼女は、友 にも一 に寺院に行くよう めました。

彼女はバジャナイ（祈禱 歌唱）活 に参加し、数年 、ペルマル寺院のアヤパン グル プの委 会のメンバ になりました。

ある日、インドラ ニ は重い病 にかかりました。彼女は 数の医 から 断を受けましたが、何も 常はないことを告げられました。しかし、彼女の病は良くなりませんでした。 に取り かれたことを疑った彼女は、スワ ミ（ヒンズ 教 ）にお祓いをしてもらうことにしました。スワ ミとその助手が彼女を れました。その助手はチャンダラといい、彼はインドラ ニ が通う寺院の宗教 礼に携わり、彼女とその友 のマレ シアへの宗教旅行を した人物でもありました。

インドラ ニ は、スワ ミを手 うその若者がみせた知 にととても感 しました。

その の 、チャンダラは彼のお に入りの女神カ リ アンマから、インドラ ニ を妻として娶るよう告げられる を ました。 得の 、彼の家族はインドラ ニ に求婚しました。インドラ ニ と彼女の家族にとって、 婚の申し出は嬉しい きでした。インドラ ニ は、 なヒンズ 教徒と 婚するという彼女の が叶うことが信じられませんでした。

インドラ ニ と い、チャンダラは なヒンズ 教徒の家庭で育ちました。それに加え、チャンダラは家族の中でも最も な人物でした。彼はたびたびトランス状 に入り、神々を称するマントラを唱えました。それは、神々に取り かれ、彼を通して神々が言 を するものだと なされていました。ヒンズ 教において、神々から取り かれることは名誉あることなのです。

チャンドラや他のグル プメンバ たちは、スワ ミの教えを くためによく集まりました。また彼らは人々の家や身体から を追い うため、よく他人の家を しました。こうしてチャンドラはスワ ミの助手として任命されたのです。

インドラ ニ はトランス状 に入ったことはありませんでしたが、チャンドラが象神であるヴィヤナガ によって取り かれた（とされる）のを たことがあります。チャンドラは象と全く同じように振る舞い、象の食べる果 を食べました。

トランス状 のとき、チャンドラは人々の を受け、 解 の相 を受けました。彼を れた人々は、彼を「神」と なし、彼の前にひれ伏しました。チャンドラによって祝福を受けるため、 にヴィブ ティ（灰）を れられた人物が れてこられていました。

これらのことにも わらず、チャンドラは不 を感じていました。彼は自分の人生のどこかが狂っていることを直感していました。彼は光を ることが出来ず、彼の道が によって常に塞がれていると感じていました。彼は光に到 するためにその を取り いたいと望みました。彼は3,360ものヒンズ 教の神々のうちのいくつかに祈りを捧げていました。

彼は混乱すると、 を れヒンズ 教のことをより しく べていました。彼は 老たちからも学んでいましたが、まだより多くのことを知らねばならないと感じていました。多くのヒンズ 教の 者たちは、知 のすべてを することを望みませんでした。彼らにとって知 とは 入源のようなものであり、それが ることを望まなかったのです。

それらの 物の大半はサンスクリット であるため、ヒンズ 教について独学することは困りました。チャンドラは、彼の探究心を たすような 典を つけ出すことが出来ませんでした。それらすべては なる著者によるもので、それぞれはヒンズ 教の起源について なる解を示します。バガヴァッド ギ タ（ヴィシュヌ神をより する 物）、ラ マ ヤナ、マハ バラタでさえ、非常に限られています。これらの 典は、善行や神々への礼 を促す、文学のような 面を持ちます。何より、それらの神々はアディ パラシャクティという女神なのです。彼女が全宇宙を支配すると言われています。ヒンズ 教の本 とは、良き を得られるように努力すること、また半神を通して神に崇 礼 することなのです。

悟りへの探求において、チャンドラはシンガポールのトアパヨでキリスト教道と出会います。彼は悟りを期待し、キリスト教徒と なることになりました。しかし人々の教会における 度を主な原因として、彼はキリスト教を好きにはなれませんでした。そこでは、若い男女が作法に振舞っていました。キリスト教は彼が探し求めていたものではなく、彼はそこから退きました。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/111>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。